

名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 鈴木 弘 先生

社団法人日本鉄鋼協会 名誉会員、東京大学名誉教授、工学博士 鈴木 弘先生は、平成21年8月14日、ご逝去されました。享年95。謹んで哀悼の辞を申し上げます。

先生は昭和15年3月東京帝国大学工学部機械工学科を卒業し、同年4月住友金属工業株式会社に入社、同年9月海軍造機中尉に任官した後、昭和17年11月東京帝国大学助教授に任ぜられ、第二工学部に日本ではじめて設けられた非切削工作学講座を担当されました。昭和25年4月東京大学第二工学部の改組とともに東京大学生産技術研究所勤務となり、非切削工作学部門、ついで変形加工学部門を担当されました。昭和27年11月東京大学教授に昇任、昭和51年4月東京大学を停年退官し、名誉教授の称号を授与されました。この間、昭和46年11月より49年11月まで東京大学生産技術研究所長をつとめられました。

先生は一貫して、鉄鋼・非鉄金属等工業用材料の生産・加工の分野で主たる位置を占める塑性加工学及び塑性加工機械工学の研究に取り組み、数多くの業績を上げられました。圧延工学、および変形抵抗に関連する一連の理論的・実験的研究は特筆すべきもので、わが国の工業技術・学問の発展や技術体系の確立に大きく貢献し、我が国鉄鋼業の戦後の飛躍的発展を支える役割を果たしました。例えば昭和40年頃電子計算機による大規模数値計算を駆使し行われた連続圧延機の動特性の解明に関する研究は、金属薄板製造の生産性を高め安定した製造を実現することに繋がりました。また国産第1号の高速圧縮実験機を製作しその後約10年の間に、鉄系金属材料49種類、非鉄系金属材料21種類の塑性変形抵抗を、1200℃、100/secまでの変形速度の範囲で詳細に測定した結果をもとに編纂されたデータ集は、今でも国内のみならず世界的に引用、利用されております。これらの功績に対して、大河内記念技術賞・精機学会明石記念賞・日本塑性加工学会論文賞・日本機械学会技術賞・日本鉄鋼協会浅田賞・紫綬褒章・日本学士院賞、など十余の賞が贈られております。

先生は昭和36年に社団法人日本塑性加工学会が設立されるにあたり大きな役割を果たされました。さらに、日本機械学会では副会長・理事をつとめ、日本鉄鋼協会、日本潤滑学会などの運営にも積極的に関与されました。他方、一時期通商産業省機械試験所部長を併任され、また、工業生産技術審議会・学術審議会など、数多くの政府諸官庁の審議会委員を歴任し、卓越した学識を持って行政に参画するとともに学界、産業界の振興に寄与されました。これらの顕著な学術功績によって先生は、昭和60年11月に勲二等旭日重光章、昭和61年11月には文化功労者に顕彰され、平成8年12月には学士院会員に選任されております。

先生は東京大学在職中より数多くの民間企業研究員を受け入れつつ共同研究を行い、退官後はご自身で設立された鈴木研究室を拠点に教育研究活動を精力的に進められました。退官後20年以上にわたり鈴木研究室にて開いた圧延工学および圧延技術研修会は、基礎理論を踏まえた研究開発と、他の分野に先駆けて技術輸出の時代に入ったことで要求された独自技術開発の、二つの要請に応える人材の育成を意図して行われたと聞いております。厳格さと温かさを兼ね備えた先生の薫陶を受けた大学院生、社会人研修生は2000名余に及びます。

先生が鉄鋼科学技術・生産技術と本会の発展に尽くされた業績に感謝し、会員一同衷心から哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り致します。

平成21年10月
日本鉄鋼協会 会長 友野 宏